

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目のつく所に理念が掲げられており理念に沿ったケアにつなげている。ミーティング時に読み合わせもしている。	玄関や各会の正面に掲示しており、ミーティング時に唱和している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園児との交流、地域行事への参加、近隣の理髪店の利用、日頃の散歩時の挨拶等を通じて交流している。	理事が地域との会合に長年出席し地域として日常的に交流している。また民生委員とも情報を交換し共有している。地区3地域と「火災又は震災等の相互応援協定書」を締結し消防等も交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通所利用の方があれば、いつでも対応できるよう努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議が開かれ、看取りや現状報告などから問題提起し話し合い、サービス向上に活かしている。	直近では11月28日、12月14日に開催されている。上田市の職員も参加している。12月はクリスマス会を兼ねて実施されている。グループホームの行事等の現況報告やインフルエンザ対策等が話し合われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員の方に運営推進会議に出席頂いたり、行事の際にはご参加いただいている。	運営会議に市職員や民生委員が参加しており、事業所の現況やケアサービスの実情、行事等について話し合われている。行政とはコミュニケーションがとれており、気軽に相談できている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止のマニュアルを掲げ実践につなげるべく研修を行っている。玄関の施錠についてはご家族の了解を得ている。	病院全体で身体拘束委員会を設置しておりグループホーム担当者も参加している。マニュアルもあり職員にも周知している。また倫理面でも委員会活動と合わせ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを掲げ実践につなげるべく研修を行っている。また、職員同士コミュニケーションをとりストレスのない介護を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して職場内で研修を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	職員が契約内容を把握し、契約等の際には御家族が納得されるまで説明を行いご理解いただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、御家族、管理者、職員が意見交換している。また家族会の正・副会長が運営推進委員となり外部の会議に参加している。	家族会を中心に利用者、家族等の意見を反映している。会長、副会長の任期は2年となっており、運営会議に参加し要望を反映させている。	家族へは毎月のケース記録の控えが送られ丁寧な報告がされている。合わせ職員の負担にならない範囲で総括したコメントがあると家族の方は理解しやすいと思われ検討の余地あり
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングに管理者が参加し職員の意見・発言の場を設けている。	法人全体への連携会議の責任者の参加や職員会議、各種委員会に担当者の参加することで運営に関する職員の意見や提案を反映させている。また、個人面談により個別の職員の意見を聴いている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はほぼ毎日、顔を出しており、職員個々について把握していると思う。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに研修の機会を設け参加してもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会やグループホーム部会への参加を通じてサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	散歩や入浴時など、ゆったりとした時間の中で傾聴・観察する時間を多く持ち、ミーティングの場で話し合い統一したケアに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や改定時、ご家族とのお話し合いを開き、気持ちを受け止める様、努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族と、サービス計画者、担当との話し合いを通じてご家族の要望などを探り、要望があればハビリや口腔指導に入っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯物干しなど、共に生活していく中で、職員の知らないことを教えて頂いたり、助けていただいている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お花見やクリスマス会など四季の行事に参加して頂き、常に感謝の気持ちをお伝えし協力いただいている。また、希望される御家族には1日の様子をケース記録に沿い細かくお伝えしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人については、こちらから働きかけはしていないが、希望があれば支援する体制にある。	グループホームは上田の市街地にあるので、馴染みに近いと想定される近所の商店街に出かけ近隣と交流を図っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置など利用者同士が最も安心して関わり合い、時には食事介助のお手伝いなど、お互いが支えあえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお見舞いに伺ったり、行事への参加をお願いしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1日の時間の中で自由に過ごして頂いている。なるべく多くの関わりを持つ様に努め、思いを受け止め統一ケアにつとめている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握はアセスメントを丁寧に実施している。またケアを通じての会話から聴くように心がけている。食事では利用者の嗜好に応じた甘味に対応している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から伺ったり、家族会や面会でのご家族との情報交換から今までの暮らしの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子をケース記録に記入し、心身状態等の現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で話し合いを持った後に、計画作成担当者が介護計画を作成し、ご家族の了解を頂く。必要に応じてご家族との面談を設けている。	見返しシート、個別カンファレンスでモニタリングを職員が分担して記録し、これらを丁寧にレビューし生活援助計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・業務日誌に記入し職員全体が共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月のミーティングで個別のケアについて話し合いを持ち、それをサービス計画に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な床屋さんの来訪や地域の行事を通じて暮らしを楽しむことが出来る様支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設されている為ほとんどの方がこちらを利用し適切な医療支援が行われている。又、かかりつけ医がある方はそちらを受診している。	敷地内の病院が対応している。希望を聞いてかかりつけ医を受診する仕組みとなっているが、ほとんど病院の医師を主治医としている。かかりつけ医との連携は同じ法人内であり連携がとれている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務しておる他、月1回の訪問看護や隣接している病院との連携も取れている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接している病院との間でサマリーに沿って対応できる関係がなされている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの支援はご本人・ご家族の希望に沿うよう取り組んでいる。また隣接している病院で対応できる体制が整っている。	終末期の方針については家族会を通じ周知している。個別の利用者ごとに医療と合わせ、家族・親族と支援方法について共有している。今年度3件の実例があり共有の方針に従いケアが行われている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接している病院での研修や職場内での研修が行われている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行い、全職員が周知徹底を図る。又、防災訓練の際には地域の方々にも参加して頂きご協力を得ている。	病院全体を含め総合防災計画が策定されている。グループホームを対象に防火戸等のチェックや防災訓練がされている。地域との防災協定が結ばれておりスプリンクラーは設置済みである。	冬期や夜間など厳しい環境設定での机上の訓練を繰り返し、連絡、防火扉等の閉鎖、誘導方法、担送、護送や1日目、2日目など時間経過後行動をシュミレーションし課題がないか検討を継続してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に応じた対応をしている。又、トイレのカーテン、入浴時の対応等、プライバシーに配慮した支援をしている。	2階の利用者は高齢化が進み重度化している。プライバシーに配慮した言葉かけで対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に過ごして頂いている。職員は利用者が思いや希望を表したりできる様、信頼関係を深める努力をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、希望に沿った支援に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時の洋服選びなど御自分で出来る方はご自分で、できない方は希望に沿うよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や料理を工夫している。その際、食事の準備や後片付けと一緒にいただいている。	献立は担当者が立て管理栄養士が確認している。一年間の季節ごとのパターンメニューを中心に献立を工夫している。利用者が高齢化と重度化しているため食事の準備や後片付けと一緒にする機会は減ってきている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス等については管理栄養士と相談している。水分量の確保については特に気を付けて支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導や口腔ケアの研修等に基づき、毎食後口腔ケアを行っている。義歯は毎晩消毒して清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見ながらのトイレ誘導等、個々に対応した支援を行い、可能な限りトイレでの排泄・排泄の自立に取り組んでいる。	リハビリを兼ねて出来るだけトイレでの排泄を心がけている。年々利用者が高齢化、重度化しているためオムツの利用が増えてきている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材での料理や水分補給に気を配り、又、体操等をしていただいている。必要な方には排便表を作成し支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールを公平に組み入浴を楽しんで頂いている。又、本人の希望に沿って支援をしている。	入浴は午後入浴の時間となっている。利用者ごとに入浴する日が決まっておらず平均で週2回から3回の利用となっている。重度化した利用者は二人介助で実施している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝の起床時、無理に起こすことなく御本人の意思を尊重している。お昼寝も自由にしていただいている。夜間はその方の生活リズムを把握したうえで、明るさや温度・湿度等にも気を配っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録にファイルされており、職員が常に把握し、適切な服薬の支援と症状の変化等に気を配っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生会など生活歴に応じた楽しみ、家事の手伝いや花壇の水やり・草取り等の役割、散歩・外出などの気分転換を実践している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただくための外出や外食を企画実行している。又、ご家族に散歩に連れ出して頂いたり、散歩の際には地域の人々との挨拶や声掛けなど交流を図っている。	冬場は外への外出の機会が少ない。4階屋上に庭園があり外の風景を楽しむことができる。春から秋にかけては庭園や野菜を作ることができる。中心市街地にあり、希望に応じ近所の散歩や買い物に出かけている。家族の協力と合わせ利用者への外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に関しては、家族の了解のもと職員が管理し御家族に報告している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や家族会のお知らせなど書ける方には書いて頂いている。また、必要に応じて電話を掛ける体制を取っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂に季節の花を飾ったり、ソファを置くなど家庭的な雰囲気作りに努めている。また、テレビや音楽を聴く際には音・明るさに気を配り、温度調節を行い居心地良く過ごせるよう工夫している。	花や作品が飾られ共用の食堂、居間がゆったりとした空間をもって配置されている。南向きの明るい部屋で冬でもぬくもりを感じることができる。温度や湿度に気を配りテレビ、ソファや音楽が流れ居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士がお話し出来る様な席の配置やゆったり過ごせるようソファを配置している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真やお花を飾ったり、テレビを置いたり、本人、ご家族と相談の上、馴染みの物を置いている。	利用者の好みに写真やテレビを置くことができる。家族と相談しながら本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺を設置し段差をなくし安全に歩行できる工夫をしている。また、居室の掃除や洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器洗い拭きなど自立支援に努めている。		